

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200117		
法人名	医療法人 徳洲会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	秋田県山本郡三種町浜田字上浜田1番地2		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にクリニック、通所リハビリテーション、居宅介護支援、ショートステイ、特定施設と法人一体となり、地域密着型の医療、福祉、介護サービスの提供に努めている。利用者、家族、及び職員との交流や緊急時での連携など、多種多機能を活かし展開をしている。クリニックと併設しており看取りも積極的に行っている。利用者は住み慣れた場所で最期を迎えることができ、家族からの感謝の言葉も聞かれている。法人としてどこの部署で何があっても、職員全体が協力し合う体制となっている。また、近隣住民との理解や協力を得られ、緊急災害時の連携や協力体制の確保等、地域全体でご利用者様の生活支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内に同じ医療法人が経営するクリニックや介護事業所があり、地域における医療・福祉・介護拠点としての役割を担っている。また、これら関連施設と相互連携されており、防災や各種研修等、単一事業所では困難な事業運営が可能となっている。グループホーム利用前からこれら系列の事業所を利用していた方が多く、以前からの顔なじみと接する機会が多いのも大きな強みとなっている。看取りにおいてもクリニックとの連携していることでバックアップ体制が確立されていることから最期まで充実したサービスを受けることが可能となっている。事業所独自の理念である「安心」、「信頼」、「親切」は開設以来変わらず運営やサービス提供の礎となっていることが感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療法人徳洲会の理念と地域密着型の事業所として「安心」「信頼」「親切」のグループホーム独自の理念を掲げている。	開設からの理念であるが、ミーティングを通して職員間で理念の是非について話し合いやアンケートを行っている。この理念を基本としてサービス提供に努めていると感じられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は開催できなかったが、同敷地内にある通所リハビリの行事に都度参加され、保育園児や幼稚園児が、歌や踊りを披露してくれたり、利用者に肩もみをしてくれたりと交流を深めている。また、法人全体のドラゴン祭りでは数多くの地域の方々に参加され、法人、職員、利用者がともに暮らす地域一体となっている。	近隣の保育園からの訪問や法人全体のお祭りといった行事のみならず、日常生活においても地域の一員として交流が図られている。同一敷地内のクリニックや事業所を利用する地域住民と接する機会が多く、入居前からの交流が継続できている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	2か月に1回、近隣住民の方に訪問し、「さわらび便り、利用者状況報告書」を配布しながら認知症に関する理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策により、事業所での開催ができないため、運営推進委員、家族にはお便りや状況報告書等の文書を配布している	感染症対応のため現状会議形式での開催ができず、利用者状況等を文書での報告にとどめている。報告書に対し委員からの意見等を求めているが、いまのところ実績がない状況にある。	運営委員との話し合いの方法や意見を聞く機会を検討していただきたい。ホームでの開催が困難であれば開催会場を変更する他、報告を頂く方を講じるなど協議、検討をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に入退所の報告書や運営推進会議の書類を届ける等の情報共有を図っている。また、行政担当から空き状況や研修案内等、連携を密にしている。	定期的に入退所報告や利用者情報等を報告するため役所を訪問し説明している。法人からも地域ケア会議に参加しており、都度運営に必要な各種情報や案内をもらうなど相互協力体制が確立されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で管理者、事務長、看護師長等をメンバーに身体拘束の適正化に向けた会議を開催している。その内容を管理者から職員に説明をし、周知を図っている。利用者の安全確保、危険防止策として行動を抑制することのないよう取り組んでいる。	法人内の管理者、事務長、看護師長などで作る「身体拘束の適正化に向けた対策会議」を各事業所共通で作り定期的に開催している。また、法人全体での研修会を年2回開催しており、身体拘束に係る職員の理解を深めるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルに基づき、見過ごしのないように細心の注意を払い、都度職員間での報告や連絡、相談に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内や外部での研修、勉強会の機会を持ち、今後も活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用者、家族に説明と同意を適切に対応し、理解と信頼関係を築いて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお便りや利用者状況報告書を送付したり、家族の面会時に情報を伝えることで思いを積極的に引き出し、情報交換を行っている。	毎月、写真を多く掲載した「さわらび便り」や、利用者ごとに「今月の生活状況について」の報告書を送付して家族の疑問や不安解消に努めている他、面会時や電話で気軽に意見が言える環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回職員個人面談アンケートが行われ、希望者は面談で勤務形態、状態等を相談することができる。職員の異動に関しては、地域性、法人内の行事等を通し職員と利用者は顔なじみの関係にあり、利用者への影響は少ない。	自己評価時等に個人面談やアンケートを実施している。また希望に応じて随時勤務や異動等の個人的な意見や相談ができるほか、運営全般にも意見が言える雰囲気作りに努めている。ミーティングの際にも気軽に意見表出できる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の職員自己評価表に基づいて面談を行い、各事業所の職員状況把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年間研修計画に沿い、職員のスキルアップに努めている。また、外部での研修依頼については、職員一人ひとりの段階的な研修を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地域内でのグループホーム管理者や職員間では電話連絡での連携を図っている。今後は、グループホーム連絡協議会や地域包括支援センターの研修等に参加していきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人の事前調査を行い、精神的な不安や悩みを取り入れ、アセスメントを踏まえながら職員が対応している。また、随時利用前の施設見学を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見を取り入れ、連絡を密にしながら信頼関係を深めるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの暮らしや生活スタイル、昔馴染みの遊びや趣味、仕事等の会話を通じて利用者の背景を理解し、共に支えあう生活を送っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通常であれば面会時、居室でゆっくりと家族団らんで行っていたが、現在は、玄関での窓越しやオンラインでの面会を行っている。職員は、コミュニケーションを大切にし、共に利用者を支えていく信頼関係を築くように対応している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	敷地内の同法人のクリニック、各事業所の利用者等、顔なじみの方と会える機会がある。また、面会時や正月、お盆の外出等これまでの関りや習慣を継続できるよう支援している。	同一敷地内にあるクリニックや通所リハビリ他事業所はホーム入居前から利用されている方が多く、入居後も顔なじみの方と接する機会がある。また、お盆や正月には自宅近辺への外出支援を行っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでお茶碗やお盆拭き、洗濯物の衣類やエプロンたたみ等、孤立せずに利用者同士で行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院してもお見舞いや家族と連絡を密にし、状況を把握するようにしている。また、契約が終了しても必要に応じて連絡を取り合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに合わせ対応することで思いや意向を把握し、利用者本位の暮らしに結びつけるようにしている。また、把握した思いや意向は、口頭や申し送りで職員同士情報共有に努めている。	日常会話から本人の思いや意向をくみ取り、把握するように努めており、利用者本人に寄り添ったサービスを心がけている。普段からよく観察することで表情等から心理状態を把握し、本人の想いは申し送り等を活用して職員間で共有している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や環境を踏まえ、職員間での情報共有に努めている。特に家族や親戚、友人、知人等の面会時、情報交換しサービスに繋げている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活スタイルやリズムがあり、心身状態が良好であるように何か少しでも行動や状態に変化がみられた時は、随時報告、連絡、記録をするようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制にはせず、アセスメント、モニタリングを繰り返し、本人や家族の要望や職員全員の意見を反映させている。利用者のその時々課題や状態変化に応じて必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。	サービス担当者会議等を通し、本人や家族の要望や職員意見を反映した介護計画を作成している。作成した介護計画はミーティング時に職員に周知を図っている。	各職員の意見がリーダーを通じた間接的なものとなり、直接意見を出し合えるような取組や作成された介護計画が簡単に閲覧できより一層の共有化が図られることを期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアで少しでも状態に変化や気づきがあった時は、記録をして頂き、計画書の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動、民生委員の方々の参加や社会資源を活かし、友人、知人等の交流を踏まえた暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医も可能だが、敷地内には同法人のクリニックがあり、週1回訪問診療が行われている。薬局も向かいにあり、定期薬を届けてくれる。また、訪問歯科医院も複数あり、利用者の希望に対応している。訪問歯科の協力で研修も実施しており、関係も良好である。	入居前から同一敷地内にあるクリニックを利用する方が多いが、本人や家族が希望するかかりつけ医の利用も可能としている。同クリニックから週1回往診があり通院する必要がなく、急変時の対応や相談が可能となっている。また、訪問歯科は複数利用可能で利用者の希望に応じた対応が可能である。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の状況や気になることは看護師に報告し、必要に応じて受診、検査ができる体制となっている。また、定期的な検査も実施している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関があるため、利用者の入退院時は、都度連絡を取りながら日頃から空き状況も確認しながら連携を図っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と併設しているため、看取りのケースも多い。家族や医師、看護師、管理者が連携を図り、支援している。看取り後は振り返りを行うことで、看取りケアの知識、技術向上に努めている。	同一法人で隣接した医療機関を有するため本人や家族から看取りを希望するケースが多くある。家族や医師等と連携が図られ充実した支援が可能となっている。看取り後の振り返りにより看取りケアの知識や技術向上が図られている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の連絡体制は整っており、応急手当の指導は、看護師より受けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回、昼夜想定避難訓練を行っている。地域協力隊として体制を築き、消防署立ち会いのもと実践的な訓練も行っている。また、災害や津波などが発生した場合の避難場所の確認も話しあっている。	法人全体で年2回、またグループホーム独自の避難訓練を1回実施している。「地域協力隊」として地域住民からの協力体制も確立されている。また、夜間帯に夜勤者に加え当直者を配置している他、避難路、避難先が確保され、火災や津波への備えも万全である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は一人ひとりのプライバシーの空間と認識し、入室時は本人の了解、挨拶を徹底している。	居室は利用者本人のプライバシー空間であると職員間で共通認識のもと入室時には本人の了解と声掛けを徹底している。声掛けも支援の内容に応じて音量や場所、タイミングに気を付けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や音楽鑑賞、作業レクリエーション等、いつも自己決定ができるように働きかけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意思を尊重し、自由に過ごして頂き、食器拭きや衣類たたみ等、本人のペースを大切にし、生活意欲を高めるためにも職員側の優先はしないように心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自尊心を傷つけないようその人らしい身だしなみや好みにあった洋服等、おしゃれができるよう支援している。散髪を希望する方は、近隣の理髪屋から来て頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理担当の職員がおり、またその職員が休日の時は同法人の事業所からお弁当が届く仕組みとなっている。調理担当職員から利用者に好みや食べたい物を聞きながらメニューに取り組んでいる。利用者は、だまこ作りや皮むき、ごますりを取り組んでもらっている。	調理専門の職員を配置することで利用者の嗜好や健康状態に沿った食事提供が可能となっている。朝食のみ夜勤者が作り、それぞれ工夫して利用者に寄り添った食事を提供している。提供した食事内容はクリニックの管理栄養士に確認してもらうこととし、随時栄養面でのアドバイスを受けている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取はチェック表で把握し、体重や体調を考慮しながら支援している。水分摂取が困難な方には、ゼリーやとろみにしたりと工夫をしている。当法人の医師や栄養士からの助言や指導を受け、栄養バランスを考えながら支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施し、夕食後は義歯を洗浄剤に浸している。自分で歯磨きのできない方は、毎食後職員が口腔内をケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。一人ひとりの排泄の困難な要因にアプローチしたり、トイレの場所がわかるように工夫をして自立排泄に努めている。	排泄表を整備し、個人ごとの排泄状況に応じて声掛け等の個別支援を行っている。トイレの場所がわかりやすいように工夫がされており、ポータブルトイレを設置せず、声掛け等により可能な限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にヤクルトやヨーグルトを提供している。排泄状況や水分量を毎日チェックし、医師や看護師と相談の上、時には下剤を服用している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	心身の状態により入浴の順番を配慮している。週2回以上入浴できるよう支援しているが、利用者の希望時、また皮膚の状態など状況に応じて週3回や毎日入浴する場合がある。	週2回を原則として、本人の希望や心身の状態に応じ、時間帯の変更や順番、回数を増やすなどの支援をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中できるだけホールで皆で過ごして頂き、活動を多くしている。個々の利用者の状況に応じて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが利用者の服薬状況を把握し、医師や看護師、薬剤師と連携を保ちながら支援をしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活では食事の食器やお盆拭き、洗濯物の衣類たたみ等、役割を決めて日々張りのある生活を送っている。また、中庭で流しそうめんをしたり、ドライブに出かけることもある。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や、紅葉、海など季節に応じたドライブに出かけている。自宅に帰宅されたり、家族との外出、外食等、利用者の思いに寄り添い、本人にとって懐かしい場所、行きたい場所に出掛けるよう支援している。	季節ごとに法人内の車両を使用し、利用者全員でドライブ等に出かけている。利用者の思いや希望に応じて、家族の協力も得ながら自宅への一時外出、外食等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多く、基本的には施設側で管理をしている。お金を持っていないと安心できない方は、小銭を本人に所持していただいている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをしている方はいないが、電話をしたいと訴えがある時は、その都度職員が対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに天井の太い梁があり、圧迫感がなく明るくて床材からは木の温もりが伝わる。ソファも3台あり、利用者の思いに過ごすことができる。また、手作りの大きなカレンダーや季節ごとの装飾に配慮している。	利用者が多くの時間を過ごすホールは吹き抜けの開放的な空間であり、空調も快適に過ごせるような工夫や配慮がされている。備品等が整理され、余分な貼り紙等の装飾物がなくすっきりとした空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや椅子に座って外の景色を眺めたり、夏場にはウッドデッキに出て外の空気に触れ、気の合う利用者同士で会話を楽しまれている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室前には手作りの木のプレートがあり、配色も全て異なり自分の部屋がわかりやすいようにしている。ベッド以外にダンス、テレビ、写真、ぬいぐるみ等使い慣れた馴染みの物を持ち込み、その人らしい居室にしている。	室内はシンプルな構造で安全面に配慮がなされている。調度品は利用者、家族の意向に配慮し、希望の物を持ち込み可能としている。また、居室前には異なる配色の手作りのプレートを設置して自室が目で見えてわかりやすいように工夫がされている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場、居室がわかるように各入口に大きな字で貼り紙をしている。また、ホールには、日付や曜日がわかるように大きな手作りカレンダーを設置している。		